

晩年

D・A・N 通信

No.8

2024.02.21～2024.05.20

団 士郎

晩年 DAN 通信を日誌部分と別の企画を併せた「マガジン内雑誌」形式に出来るなと思いついた。昔、雑誌「話の特集」に女性漫画家がそんな企画を連載していた。

もともとの DAN 通信は日誌と「マンガ木陰の物語」1編と連載記事を載せたミニコミ。第二期はトークライブ参加者へのお土産用8ページの仕事場 DAN 通信だったが形式はそのままだった。その形を再現をと思った。そこで今回は日誌と「連想映画館」の二本立て。

40年以上も前からミニコミ発行が好きだった。青焼きコピー誌「四人囃子」やひとこま漫画誌「ちょもるんま だん」、マンガ同人誌「ぼむ」、「おまけぼむ」など、いろいろ作ってきた。その趣味は今も変わらないので、社会インフラが大きく転換した現在、過去の発行時の手間、経費負担など大幅にカットされた状況で、対人援助学マガジンのように大部なモノが継続発行できている。だから楽しくて仕方がないわけだ。15年目に入ったのだが、飽きたり、面倒に思うところは全くない。まだまだ、いろいろな原稿作りを楽しめそうだ。興味のあるところだけ、ピックアップして読んでいただけたらいいので引き続きご愛読の程を。

2/21 三日ほど筆って片付けるべき作業を次々。その中に仕事場仮眠ゾーンの改良も。押入れ上段に移動して寝てみたら寝台列車感覚でとてもいい。描いたり書いたりとは違ってのが快感。気分転換に「1秒先の彼女」を観てラストにうるっ。本の原稿は完了、最後にもう一度通読してから編集者に送信。

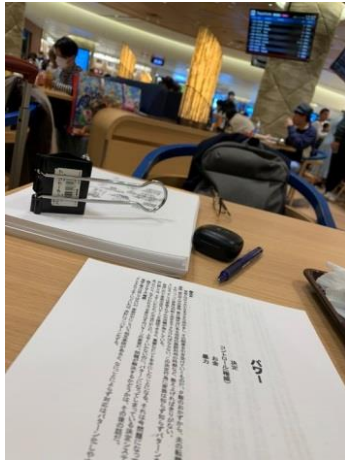


2/22 どこかで目にした誰かの言葉。それが引き金でこれが観られるのだから、ハズレが多くても辛抱。1日に一回しか上映していない。なのに結構な観客。物語が強い、

映像が作り込まれていて、面白くてあっという間に時が経つ。最近そんな映画、あまり観なかった。上映中、時間を忘れていました。



2/24 伊丹空港ロビーで飛行機を待ちながら新刊原稿最終チェック。楽しくて仕方がない。まだまだ細かいニュアンスを書き加えたがっている。キリがないから月末を区切りと決意して、そこまでに出来るところで納得する。その後は、ここで試みた方式で対人援助学マガジン新連載を目指す。したい事尽きず。



2/25 一日 WS を高知で。これはホテルの朝食。自分でお皿に取ったのだが、席で食べようとして、なかなか綺麗に並べてるなと思った。鮭、鶏と牛蒡の煮物、茄子の煮浸し、たまごやき、エビとイカのマリネ？、生ハム、練り物、シラス大根おろし、トマトサラダ、お味噌汁。ちょうど食べ切る量で美味。

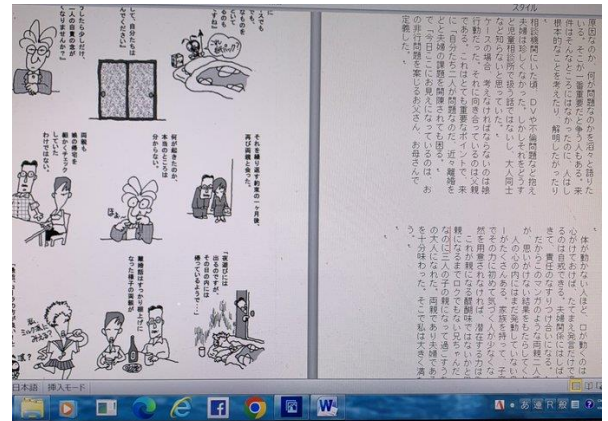


2/26 対人援助学マガジン 56 号の原稿が着々と届く。PDF 完成版の人は月末締め切りだからあと数日。能登、石川の被災地に暮らす執筆者が三人ある。みなさん無事で原稿も届くが、垣間見える日常はあの日を境に別世界。おだいじに。

2/27 来月開催の漫画展の作品引き取り作業に、朝、自宅に三人の来客。みんな高齢組だが、それぞれ元気だ。奈良県広陵町図書館で 8 年目になるらしい。あっという間に 10 年になる勢い。作品を作り出すエネルギーがあって、観てくれる人があって、お世話してくれる人がいて、うまく循環できている。



2/28 歳とったからか、パカなのか分からないが、またやってしまった。最終校正したデータを、古いので上書きしてしまった。デスクトップ、USB、クラウドとかにデータがあるが、何やら分からん。消えたわけじゃないから、もう一回手を入れよう。2 月末完成をと決意したら、もう 1 日ある。ラッキー！



3/1 Amazon、二度目の返品事態。今回は全く間違った商品が送られてきた。開ける前に、こんな形状？と疑問に思ったが果たしてその通り、頼んでないよ！という結果に。返品、返金で、新たに注文しろってことなんだけど、伝票と商品が違うと手間取りますなんて警告が。そっちだろ、間違ったのは。

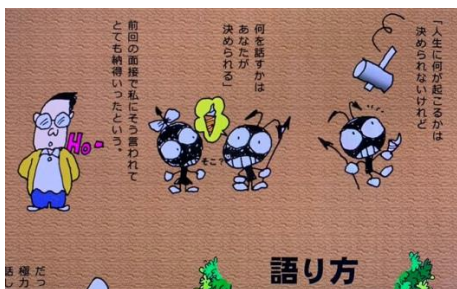


(ところが翌日、amazon から注文品が届いて、昨日のはナンダ？の事態になった。調べてみると、定期的に配送の扱いになっているプリンタのインク。そんな申し込みしたのは覚えていないが、使えるから良い)

3/2 毎月連載の新作漫画作成中。飽きたので気分転換に PC を触っていると昔の旅日記が出てきた。2008 年とあるから 16 年も前か。クロアチアを二週間かけてバスで縦断ツアーの時の記録だ。妻は亡くなったが、私の記憶は細かいことまで再現できる。写真と記録が手元に出てきて補助してくれるのは良い。



3/4 今月号の新作はいい感じの出来になって完了。続いてぼむ展用掛軸の彩色仕上げ。近日中に掛け軸に加工してくれる業者に発注だ。マガジンの編集会議にはもう一日余裕があるが、原稿はほぼ集まっている。執筆者に能登半島地震被災者が複数あって、そこからの報告が原稿にある。ぜひご覧を。



3/6 雨、寒い。あれこれ作業が一区切りしたので、街中にぶらっと外出を考えてたけどやめた。仕事場で仕事しないで本を読む。近頃 audible 三昧なので、一冊読み終えるのは久々。だんだんに関心がコアなものだけになっていく実感あり。でも、寂しくはない。まあそういうもんだろうなんて思っている。



3/7 昨晩は対人援助学マガジン 56 号の編集会議。今回はいつにも増して原稿の揃いがよく、その場で速やかな作業。併せて能登地震被災に向けてマガジンができること的话题を。まあこれからだが。あれこれの作業が皆片付いたので夜中に未知だったこれをチラチラ。子育て期の身勝手だった自分を思い出す。



3/10 昨日は午後四時間の家族理解 WS を奈良県広陵町でこじんまり実施。今日は午後から、漫画展を開催中の図書館で講演会。なので昨夜は天理市のホテルに一泊。チェックアウトを正午まで延ばして貰って、部屋でマガジンの編集と、2 月末に書き終えた本の原稿、提出後第一回の読み直しをする。楽し！



3/10 このところ漫画展の中心は掛け軸になっている。運搬が簡単で展示も簡単だから当然なのだが。奈良、広陵町図書館展で久々にパネルも展示されているのを見ると、大きさはやっぱりいいなあと感心する。高さ調節やバランスなど少し面倒な展示作業になるのだが、高齢者には見やすく好評らしい。

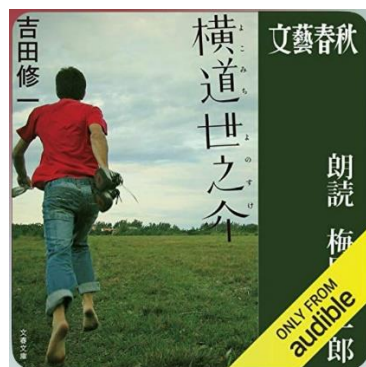


3/11 あの日の午後、仕事場で感じた揺れを思い出す
3.11。さて次の掛軸漫画展は 20 日から姫路の専光寺
で春季彼岸会。20 日の午後には一時間足らず、本堂で
お話もさせてもらう。50 年来の友人で、マガジンに連載
もしてくれている竹中尚文君のお寺だ。初めて訪問する。
只今、発送準備完了で集荷待ち。



3/12 対人援助学マガジン 56 号の担当部分をひとまず
発行所に送信。いろいろ細かい手違いや苦労はあるが、
やれば片付くのが良いところ。今号は 338 ページ。ラス
トに能登地震関連の号外を一ページ追加した。

3/15 audible の良いところは、縁がなかった本に触れる
ことができること。これは長男が大好きだと言っていたの
を覚えていたが、なんだか縁がなかった。そしてこの度、
だったのだが一気聴きである。えっ、えっどうなってしまっ
たのと思いながら、誰の人生もそれぞれに時は過ぎてゆ
くのだねと思った。



3/16 対人援助学マガジン 56 号がアップされました。ど
なたでも読んでいただける無料の季刊雑誌です。今号は
338 ページ。50 本以上の連載記事。雑誌名でキーワード
検索してぜひご覧ください。能登震災後の現地からのレ
ポートやユニークな被災地に向けた活動のお知らせなど
も掲載されています。

3/16 アレコレ終えて のんびりした夕刻、土曜の京都の
雑踏にぶらり。食後のタリーズで下巻を読んでいたら、
幼児育て真っ只中だった妻のことを思い出した。何も手
助けしない最低の父親でも、夜泣きの記憶はある。こん
な思いで抱っこしていたんだなあと心が揺れた。私は解
るのがいつも遅い。



3/19 昨日は大阪でぼむの定例会。緊急入院で一人欠
席。そういう歳だな。本日は JR 新快速で姫路に向かっ
ている。京都から新幹線も使えるが、このまま乗ってい
ても一時間半余り。読書にはちょうど良いのでそうする。明
日の予定のための前ノリ。必要はないのだが姫路城以外
に行くことは珍しいので。

3/19 そんなわけでここに。天台宗別格本山 書写山圓
教寺。思ったよりも山の中で、最近、高野山の宿坊に泊ま

った話を聞いたばかりなので、ちょっとその空気がある場所だった。姫路駅から路線バス、ロープウェイ、マイクロバスを乗り継いだ。アクセスが良くてお山をゆっくり散策できた。ラストサムライのロケ地で有名になった場所だ。



3/21 夜更かしして遅めに起きたら窓外は雪！オイオイ、日本中この寒さなのか？ 昨日は姫路の専光寺本堂で漫画展とたくさん集まって下さっているところで 50 分話す。終了後、竹中君と神戸に出て、お薦めのトルコ料理を美味しく食べる。三宮の賑やかな路地飲食街など、随分長く来たことがなかった。

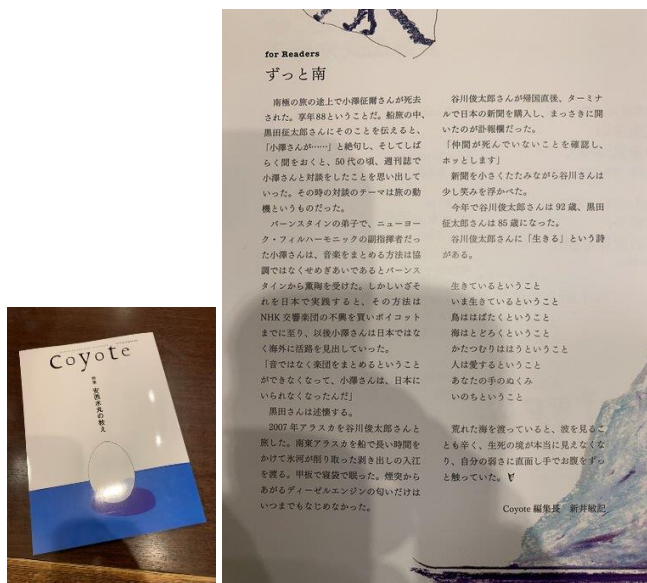


3/22 今年のぼむ展は 4 月 2 日火曜日から 7 日日曜までです。連日、14 時過ぎからは在廊します。お時間あったら、遊びに来てください。バタバタすることもあるかも

しませんが、恒例行事です。どうぞよろしく。来ていただきましたら、来客対応中でも、必ずお声掛け下さい。



3/23 ノルマを終えたので、新しいものの制作に取り掛かった。楽しい。帰路の書店でこれを見かけて購入。安西水丸さんとは一度、講義を聞いた後、数名でご飯を食べたことがあった。熱烈なファンのいる方だった。巻頭の記事の編集長新井敏記さんの仕事も本も結構見てきた。いろんな人と繋がっている。



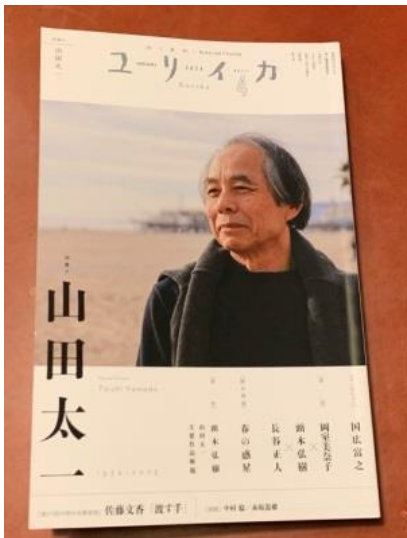
3/24 政治家はだらしないが、社会の仕組みは円滑に進められている。今日は日曜だが正午から 15 時までの間に、宅配便が四件、時間指定で届いた。大津市からの高齢者配布商品券 1 万円。ネットで見た調理器具。漫画展から返送の掛軸。そして友人からサーモンの冷凍真空パック。夕飯はこの中の組み合わせ。



(電子レンジ用調理器具なのに、焼き魚がガスのグリルよりも美味しく焼ける。焦げ目もつくし。)

3/26 10 年ほど前まで、十年間くらい学会誌に連載していた連想映画館。読み返してみると、今では書けない文章である。50 代から 60 代半ばの私の感性がこれか。再読しながらしまふプリント版で作ろうかなんて気になっている。貯まった原稿をあれこれ私家本にするのは楽しい。(などと思っていたが、また配布範囲が限定されてしまうので、マガジンに掲載することを考えた。これならバックナンバーに残り続ける)

3/28 日々の暮らしの中で、いろいろなことにささやかに、しかし確かに影響を受け続けていたのが山田太一さん。TVドラマだけではなく、様々なことで学ぶところが大きかった人だ。大声で叫ばない、勇ましいことを言わない。分かり易すぎることに警戒心を持つ。そんな事をいつも教わってきた。合掌。



3/29 歩こう！と仕事場で思った。久々に太陽が眩しい。京都御苑の桜の周りは人の花盛り。久々に出町柳の名曲喫茶に入ったら、益々音を立てるな強化で、おしぼりの袋はハサミで切るよう指導された。静かに紙に漫画の下書きをしていたら、筆記具禁止と言われた。珈琲とアップルパイで 2160 円。面白い世界



3/30 モチベーションを色々工夫して、今回も完成させた。書くネタに困ってるのではなくて、描き始めのエンジンの掛かり具合が遅い。時間のゆとりが出来たせいだから悩ましい。第二百九十話。あと 10 回で 300 回目、連載 25 年だ。今回は「つまずきの石」について描いた。



3/31 歳をとったからだろう。登場人物の多い話は、誰だコレ？が頻出する。加えて、パンフレットを見たら、以前にいろんな映画で見ている役者がたくさん出ていたのに、ほとんど気づかなかった。まあ仕方ない。怖い映画だったが、私はあまり好きじゃないなあ。



4/1 例年ほどの元気がない気がする今年の我が家の白木蓮。今日はぼむマンガ展の搬入。明日から日曜日まで 6 日間の開催です。お時間あったら是非お越しください。私は連日、14 時頃から 18 時過ぎまで在廊の予定です。来てくださったらお声掛けください。



4/3 昼前から高校の同級生とランチしながらあれこれ話す。一緒にぼむ展に来て、お茶をいっぱい。次々お客さんが来訪。うまいこと時間差訪問がありがたし。最後は約束していた M 君と夕飯を食べながらのよもやま話。仕事場への帰路は夜桜である。外国人の人出が極めて多い京都の夜。



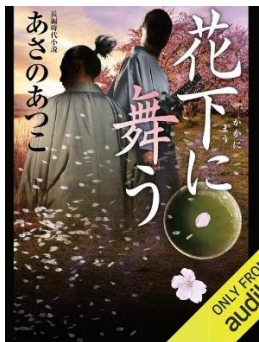
4/4 ストレッチの後、画廊に。上手な時間差で本日も七人のお知り合いと面談。久々に会う方、毎年来てくれる人、25 年ぶりにたまたま通りかかったと声をかけてくれた人。どれもこれも不思議なご縁だ。何もしてなければ再会する事なく過ぎただろうお互いの人生だ。動くことの大切さを感じる。



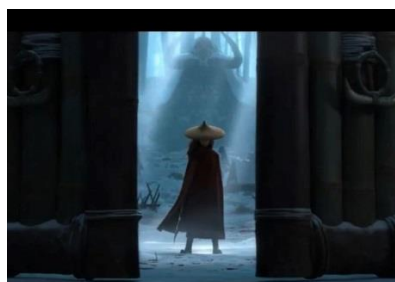
4/7 ぼむ展最終日まで皆勤で在廊。たくさんの久々の方々に会えた。今年のお出品者 7 人。高齢化しているが、それぞれ事情を抱えつつ、また来年の 3 月中旬に同じ場所で集えますように。今年お休みだった K 君の復活も祈念しておひらき。仕事場近く、桜満開の京都です。



4/8 マンガ展を終えて、夜更かしして audible で時代物を。「連日、14 時から 18 時まで在廊予定。来廊の時はお声掛けください」、こう案内していたから、来て下さった方とは話し込むことになる。その結果、6 日で二十四人の久々の人とあれこれ。毎日、友人に四人会い続けることなどなかなかない。多謝。



4/8 気になっていた真田広之の SHOGUN 将軍が観たくて disney+ に。いろいろ加入していて、それも忘れていたり相変わらずだ。早速一話、二話を観たが、長編がまだ始まったところって感想。せっかくなので他も検索していたらこのアニメが目についた。ディズニーはアナ雪ぐらいしか観てないが面白い。

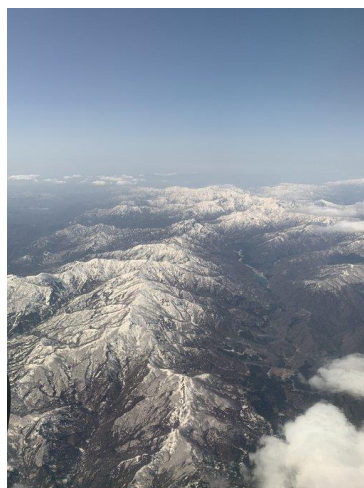


4/10 26 年目の草津家族療法勉強会。十八人の参加でスタート。世話人の W さんの尽力があつてのことだ。新旧のメンバーが集う。草津駅前の大垣書店はだだっ広いので面白い本が多い。探していたコレがあつたので購入。日本中の行ったところをチェックしてみよう。



4/13 今日はおそらく日本中が好天なのだろう。機窓から日本アルプスのどこか、雪の峰々が綺麗だ。山形空

港に着いたが暖かい。こんな日は滋賀も大阪も山形も気温は同じだ。航空機も定刻出発で 10 分も早く着陸した。



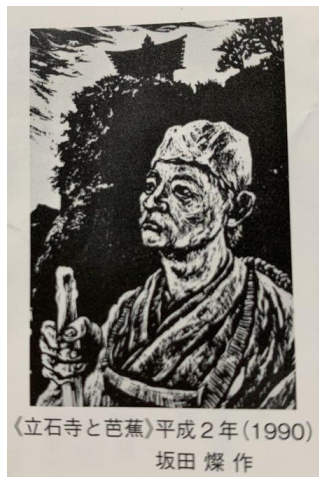
4/14 桜満開の山形でコロナあけ 5 年ぶりの家族理解 WS。会場の駐車場も、その向こうの堤？も綺麗だ。高齢者対応の参加者が多めなので、長寿社会の夫婦サブシステム、専門性と依存の二つのテーマで話す。喋り過ぎ、反省。現状一般論は未来を切り開けないし、個人的体験は普遍的でもあるという展開。

4/15 山寺立石寺にきた。「閑さや岩にしみ入蟬の声」と芭蕉が読んだ場所。しかし今日の老人に、石段 1000 段は苦行だ。何度も休みながら五百段手前でここまでにしようと思ったが、多くの人たちが登っているのに・・・と悔しさが勝り、思い直して奥の院まで。息がおさまるのに長時間。いいんだ急がない。



4/16 昨日訪れた山寺芭蕉記念館で見た、米倉斉加年の奥の細道のビデオが印象に残った。私と東北との縁は 50 才頃からのものだが、奥の細道の足跡を私も多く踏んでいることに気づく。二本松、松島、多賀城、平泉、

酒田、出羽三山他。展示の最後には、我が大津膳所の俳人への芭蕉の手紙があった。



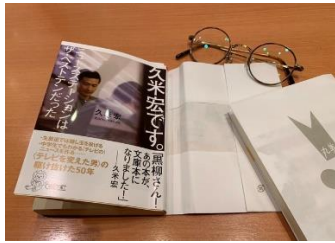
4/19 20 数年ぶりに養老天命反転地訪問。日帰り遠足仲間 N と早朝出発。ランチは待望の山盛りアサリうどんの「得」を大垣市の丸亀製麺で。その後、輪中館を見学。徳川幕府が命じた木曾三川の治水工事に、薩摩藩士が借り出され多数亡くなったり、莫大な費用を負担した史実。社会科授業の記憶にあった。



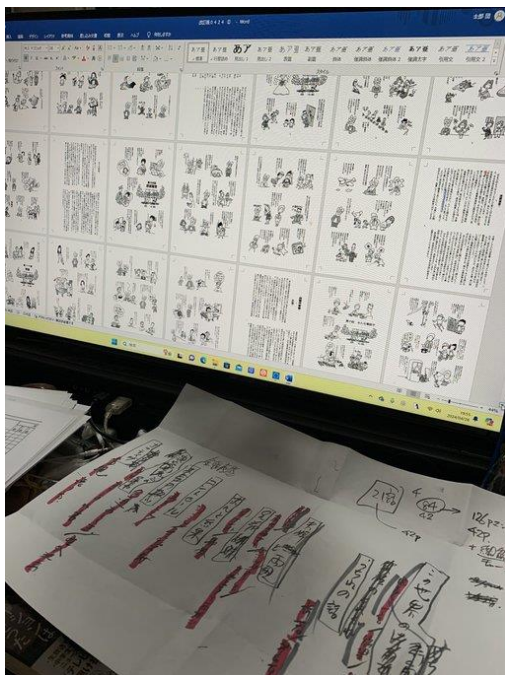
4/18 松ヶ崎の京都工芸繊維大学に初めて行った。名は昔から知っていたが出向く用がなかった。たまたま雑誌のコラムの下部にあったこの告知が目に入った。ピカソ、カッサンドルや A.フランソワのポスターにこころ動いたのだ。いいポスターがたくさんあって楽しめた。校内の美術工芸資料館で二百円。



4/25 よく知らない花が自宅に咲いていたり。仕事場近くのおばんざい屋に出かけたり。丸善で目についた文庫が面白かったり。このところの関心、自分が知っていることは何なのかという疑問の解明用の本をみる。そんな事をしていると楽しくて日々が過ぎる。気づいたら SNS 発信が滞っていた。元気です。



4/26 新刊の編集に関わってくれる人の声を受けて、大幅な構成改変に取り掛かった連休前。時間にゆとりがあるのも手伝って、思いがけず意欲的に修正に取り組んでいる。いろんな背景の人に読んで貰っての声はありがたい。専門と一般との架け橋をどう形にするかが今の作業だ。



4/27 注文したものが届いて、読み始めてあれっ?と思った。本棚も自宅4ヶ所、仕事場2ヶ所と乱立しているから、探しても分からんだろうなと思った。でもGWは暇だからと自宅の本棚1から見て回ったらすぐ見つかった。再読し始めたが面白い。ならばもう購入の必要はないのだから買うんだなあ。



4/28 掛軸漫画展のための発送準備。明日、集荷に来てもらう。5月はルキーナ金沢で三週間、豊中・刀根山医療センターで1ヶ月、大阪高槻市で1日展をする。見てくれる人が在るのは有難いし、その準備をしてくれる各地の人にも感謝だ。作業ついでに自宅壁面に、山本容子と篠原ユキオの作品を掛けてみた。



5/1 今年も年に4回、ブレイクアウトルームでの話し合いを多く含めた、zoom参加型のプログラムをやります。ぜひ、ご都合つけばご参加ください。第一回は5/15です。

ン】『木陰の物語』で家族の構造理論を読み解く会vol.3

『木陰の物語』で家族の構造理論を読み解く会 vol.3

『木陰の物語』で
家族の構造理論を読み解く会

オンライン講座
STEP2!

家族の構造理論を「知る」段階から「分かる」「使う」の段階にステップアップしてもらうことを目的に「ステップ2」と位置付けたオンライン講座を、一昨年、昨年に引き続き、年4回（季節に1回）の設計でスタートします。誰でも参加が可能ですが、条件に近い制約があります。詳細は以下お読みください。

5/3 自宅にいるGW、動かないのはいけないので、ラジオ体操の後、ウォーキングマシンを。歳なんだろうが、10分もやると息が上がる。でも30分は我慢して頑張って、脈拍も120くらいまで上げる。しばらくやってると汗ばんできて、辛さはなくなる。それにしても年齢は正直なものだ。他に書くことがない。

金沢福祉用具 情報プラザ

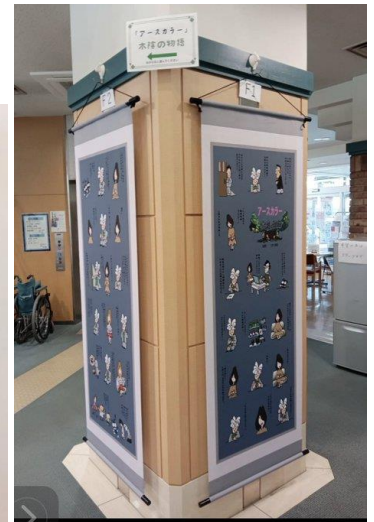


5/4 私には3日の深夜だが、4日の午前3時半。もう寝ようと思ってから、PC作業が捗り始めた。天邪鬼極まりないが、昼間ちっとも気持ちに乗ってこなかったのに今頃だ。でもこういう流れは良いものが生まれる気配。いつ起きても寝てもいい人生の巡り合わせになっているのだから、使わぬ手はない。

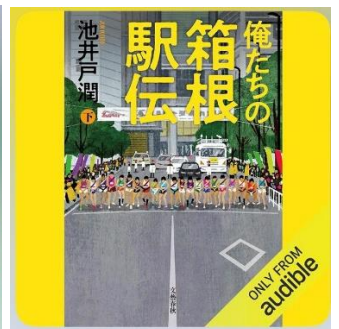
5/4 少し読んで、投げ出してしまった本の山の中で暮らしている。つまらなかったのではない。読み続ける根気がなかった。それに、ごく一部でも、納得の記述に出会えた。身の回りに色々なテーマの本が転がっているのが楽しい。読み切れていなくても、それを選んだ物語は記憶の中にある。



5/5 お知らせです。金沢福祉用具情報プラザで木陰の物語掛け軸マンガ展が始まります。3週間と長丁場です。これまで最多の10作品、掛け軸20本が展示されています。お近くの方、能登地震、被災地支援にお出かけの方、帰路などにぜひ機会を見つけてご覧ください。5月25日は会場で漫画トークも開催です。



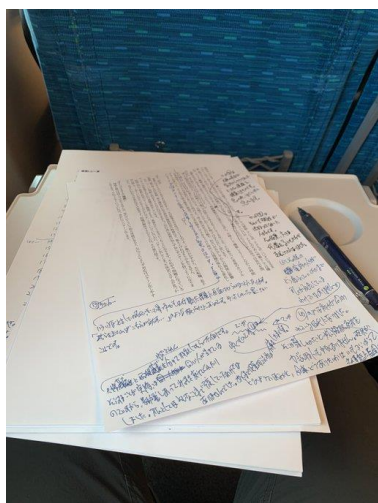
5/8 駅伝の小説って、どういいうシチュエーションで成立させるのかなあと、なんとなく読む前から見えているような気がしていた。しかし、なるほど、こういう手があるのかと感心をした。長時間、楽しく聴き切れた。夜は草津の家族療法勉強会。仕事終わりの参加者が熱心に集まってくる。



5/9 本日の立ち回り先。Dr.stretch 1h、hair salon HANDS 1h、TULLY'S COFFEE 3h おややお横文字ばかりだ。長居したコーヒー店は新刊の構成をやり直して、校正に手をつけていたからだ。仕事場への帰路、筍ご飯とおでん、胡麻和えを購入。遅めの夕飯。



5/11 混雑した車中で、本の改稿作業に勤しむ。新幹線久しぶりだなあと思って手帖を見たら2月の東京WS以来だった。GWは京都にじっとしていても街は大混雑だったが、その熱が少し治って私的日常生活が戻ってきている。そんなわけで、あちこち遠征の日々も戻ってきたというところだ。



5/12 東京泊の翌日、横浜で暮らす娘の子に会う。公園に行きたいそうで、日産スタジアム周辺のスポーツ公園に。初めてだが、たくさんの親子がサッカー、スケボー、ドッグランなど楽しんでいる。都会のこういうインフラに感心する。楽しく過ごして帰路の車中ははまっているあさのあつこの時代物。



5/13 5月10日からスタートしたはずの漫画展の知らせがない。変だなと問い合わせると、管理者から政治的だとの理由で、1日で撤収させられ腹だいたいと世話人が言う。どこが政治的?とも思ったが、こんなこと近年ないなあと面白くなった。描いているものに少しはそんな空気があったのかと喜んでいる。



5/17 漫画展絡みの表現の自由問題?はまだよく分からないまま動いている。新刊のための大構成変更にかかりきっていたのが、おおかた仕上がった。クローズドのzoom勉強会2024がスタート。仕事場近くにこんな夕飯をとれる店がコロナを乗り切っている。おぼんざい定食をかやくご飯に変更、生姜焼きを+して2340円。外国人にばれていないようで、今のところゆっくり食事が出る。



5/17 高校山岳スキー部から一緒だったSが亡くなった。妹の夫になっていたから義弟でもある。60年付き合いだった。家族だけで見送るつもりだったそうで、入院の様子を聞こうと電話したら、今晚お通夜だという。お葬式は行く

よと告げて今、見送ってきたところだ。身近な人が亡くなる
ことが増えた。



5/18 自宅を早めに出て伊丹空港のラウンジで新刊の二
稿仕上げに取り掛かると捗る。ANA で札幌に着いてホ
テルのスタバで続き、おおかた完了する。夕食は、世話
人と郷土料理を出す、昔ながらの居酒屋風の店に。ハッ
カクの刺身と骨せんべい、初めて食べた。ルイベ、ホヤ、
山菜天ぷら等々美味しくいただく。



5/19 札幌 WS、40 回目になるそうだ。気持ちいい 5 月
の朝、会場に向かう途上は緑が美しい。プログラムは快
調に話し、想像してもらいを繰り返す六時間。終了後、
思いがけず明日 77 歳を迎えることを祝ってくださる。あり
がたいことだ。



5/20 青池、十勝岳、富良野近郊で、あれこれ見たり食し
たり。残雪と新緑、いい季節の北海道の知らないところ
を案内してもらった。よき休日だな。



新連載

連想映画館

Playback

2000年代から10年あまり、別のところで連載していて、ごくわずかの
の人にしか読んでいただく機会のなかった原稿の再掲です。

ペパーミント・キャンディ

2000年公開 韓国映画

監督 イ・チャンドン

韓国／NHK 共同製作



自殺

日本は先進国の中で突出した自殺多発社会である。原因も経過も様々だし、なにより多くは疾病の分類で語られる。それは承知した上で、でも人はそれまでの人生を生きてきて、そこに至っているのだからなあと思う。

韓国映画「ペパーミント・キャンディ」の始まりは河原のピクニックである。昔働いていた会社の同僚達が、久しぶりの再会に歓声を上げる中に、明らかに浮いた男が一人いる。彼は懐かしい時代の記憶に、安心して一時浸れるような現在を確保できなかった。

「昔来た頃には…」と思い出話に花咲く河原で、旧知達のざわめきを耳にしながら、なぜ自分はこんなに遙か遠くに来てしまったのだろうと思う。するはずのなかったことを重ね、こんなは

ずではなかった時間を過ごさなければならない。もう一度あの頃に戻りたい。戻ることが出来たらきっと他の人生を選んだに違いない…そう思いながら一方で、何度やっても同じ人生しか選べないのかもしれないとも感じている。フラフラと河にかか

る鉄橋の上に出て、仲間達の語らいを見下ろしながら過去を思う。

列車がトンネルに入って暗くなり、出口が近づくと明るくなる。映画はこの繰り返りで時間をさかのぼってゆく。そしてこの男が、韓国社会のありふれた青年の一人として、恋をし、二年間の兵役義務を果たし、又新しい仕事へと向かっていったことを観客は知る。

やがて鉄橋に列車がさしかかってくる。ひょっとすると子どもの頃、機関手に怒鳴られながら、直前で線路から飛び降りるような馬鹿な遊びもしていたかもしれない。そうだあの頃は、決心すれば何時だって飛び降りてしまえた。だってまだ何も始まっていない未来を考えると命は惜しかった。しかし今日、彼はその線路から飛び降りない。もう飛び降りて、やり直す人生などないのだと思ってしまった。そして、気づいた人たちが遠くで騒然とする気配を感じながら、「こんなはずではなかった…」、そんな眼差しと共に消えてしまう。男にとって、ありたかった人生とはいったいどんなものだったのだろう。

もし…

もしあの時、ああしていなかったら…、もしあの時、あの人の方に向かって歩み出していたら…、そんな分岐点は誰にもあるだろう。

『…(後でなら何とでも言える)』、そんな思いを胸に批判の矢面に立つこともある。浴びせられる言葉をその通りだと思いながら、『(でも、その時には、そこまで考えられなかった…、あるいは俺は俺なりに精一杯頑張っていたんだ…)』と心の中でつぶやいている。そして、他の人はそうではないのだろうか…とも思う。

たいていの物事には時と共に明らかになる結果があつて、議論はしばしば、辿り着いた結末を前に繰り広げられる。それは仕方のないことであり、渦中にそれ程全体を見渡した判断など出来たはずもないことはみんな承知している。だからそんな正論は、後出しジャンケンの勝者のようにしか思えないし、今更強調されるまでもなく分かっている。

それにも関わらず、「こんなはずではなかった、どこで違ってしまったのだろう。俺は間違っていたのか…」、そんな男の声がずっと聞こえ続ける。

あまりにも多くの間違いをしてしまったために、彼にはもうどこにも行き場がない。誰に言っても仕方のないことだとは判っている。自業自得だと言われれば、そうだと思う。しかし、誰にも知られず、誰にもわからないこととして片づけられるのはあまりに悲しい。だから分かってもらいたいのではない。ただ、とにかく見ておいて欲しい。分からなくていいから、自分を見知らぬ誰かではなく、「あいつどうしたんだろう?」と、固有名詞で思っていて欲しい。

いろいろあった自分ではなく、まだ何も始まっていなかった自分を知っている旧知に、「どうしちゃったの?」と疑問形のまま、別れを告げたい。そんな思いでたどり着いた河原ではなかったのか。

時間

映画の時間は当然前に進んで行く。たとえ物語に回想シーンが含まれようと、時間はそこから前進している。男は自分の人生がその様に時を刻んできたことを拒否はしていない。しかし、なぜこんな所に自分は辿り着いてしまっているのかと考えると、選ばなかった人生や、選ぼうとしなかった誰かとの人生のことが、取りかえしのつかない過去として想起してくるのを抑え込むことができない。

かつてこの河原で、自分に思いを寄せてくれている女性に、青年期の気まぐれのように語った写真家の夢。それを彼女はずっと覚えていた。それは愛する男から、そっと自分だけに告げられた見果てぬ夢のように思われた。その実現のためにしてあげられることをと、コツコツ蓄えた貯金で彼女はカメラを買う。しかしその頃には、二人の人生はもう交わることのない歩みを始めていた。

手渡せぬまま時が過ぎる。結婚し、子どもももうけた彼女が余命幾ばくもない病に伏せていることを、探し当てて訪ねてきた夫から知らされ、病院に会いに行くことになる。そこで彼女が大事に持ち続けていたカメラを手渡される。これを受け取る資格も、心もない自分はたまらなく寂しい。自分のことなどまだ何も分からない中で、たまたま口走っただけのこと。あえて言うなら、相手の関心をひくための口から出まかせに近い気まぐれだ。

それから長い時間があって男は思う。あのカメラが意味を持つ自分を生きられたら、今みたいな自分ではなかっただろう。大切に思い続けてもらう価値もない自分。そんな思いが生きる意欲を砕いてゆく。愚劣な人生だった。

美しい人生

兵役についてみて思いがけない自分の弱点に気づく。その

反動のような職業選択で警察勤務することになる。時代は大規模なデモや学生運動弾圧の渦中にある。公安警察に配属され、地下運動主謀者の取り調べで初めて拷問をする。「人生は美しい」、凄惨なシーンの中で、痛めつけられている男の口から出た言葉だ。

やがて時は過ぎ、時代のテーマも過去のものになり、人々も皆、それぞれの場所に散った。過ぎてしまった肉体的苦痛もやがて遠くなった。しかしそこにあった言葉の記憶は消えない。二人の男が再会するのは、何でもない町の焼き肉屋のトイレだった。もう忘れてしまっていたであろう男に彼が「人生は美しいか」と問いかける。テーブルには男の妻と子どもたちがいた。過去は過去として納めた男は、いま一人の家庭人として生きている。おそらく、もう人生は美しいなどとは語っていないだろう。

しかし彼は自分の家庭を安定して持つことができない。仕事も家族も、いやもつと根元的な意味で、誰かとの関係空間で自分として居る場所がない。

人生が美しくなるのは、その終末が見えて来たときではないだろうか。本当は限られた人生を、まるで無限であるかのように思っている、それ程大きな誤解として、傷つくことのない状態で、毎日が過ぎている限り日常は限りなく些末な事の積み重ねだ。

それが突然、限りなく愛おしく思えたり、かけがえのない小ささだと思えたりするのは、もうそれを当たり前のものとして持ち続ける鈍感さが許されなくなったときだろう。



主人公は気の小さい、それなりの能力は持った、多少思い上がりの強い小市民男だ。世の流れに身を委ねながら、自分らしくないと思うことも時にはこなしながら生きてきた。そんな男は韓国社会に五万という。彼にだけ特別なことが起きたわけではないのだろう。

しかし、しかしである。監督はインタビューで「出来れば二十

代の若者に見て欲しい」と語っている。まだ今から始まることばかりの人々にと。その気持ちがとてもよく分かる。

多くの人は主張だけで暮らしを形作るわけにはいかない。「現実は何…」とか、「霞を食べて生きてはいけないから…」、「こういう時代だから…」、などと言い訳をつぶやきながら、既存世界のどこかに自分の居場所を探さなければならない。

それに、とりあえずだろうとなんだろうと、いったん見つかってしまうと、世の中はこれまでの並列平板な羅列ではなく、「そこから見える他の世界」という立体構図になる。それなりに分かったような気になるには都合のいい現象だ。しかしどこもがそうであるように、その世界にもきつと表があれば裏もある。

見つけたと思った世界が長居できるところではなかったり、それまでの自分との大きな矛盾を内包することになったりすることも少なくない。その場に居続けるなら、精一杯の自己肯定も、生きるよすがとして受け容れられなくはない。しかしひとたびそこを離れてしまうと、かつて懸命に駆使していた自己弁護の言葉記憶も空しく、矛盾ばかりが己を責める。そして転がりだしてしまったものを、落ち着かせるのがいかに難しいかが実感される。

色が付き始めて走り出した人生は、かつてどんな色にも染めることができ、どこに向かって走り出しても良いように思えた時代が、もう自分の人生であったことさえ信じさせてはくれない。

思い出

軍務についていた時代、せっせと面会に来てくれていた彼女がそっと忍ばせてきたペパーミント・キャンディ。それを大切に保管していた自分。あの時、大切にしていたのはキャンディなんかじゃなかったのだと気づくのがあまりにも遅かった。

とにかく、何とも言いがたい感情がしばらく、自分の中に否応なく残ってしまう映画だった。内側に目を向けると、渦中に居ることで初めて見える事実にも出会う。そこで初めて、分かってからの決断が迫ってくる。

初めて触れた世界を天職だと簡単に感じてしまえる感性も、「これじゃない、これじゃない」をつぶやき続け、転職を繰り返す人生も、それほど上等なものには感じられない。これは誰もがどこかで考えたことがある、選べなかった方の人生への思いの物語でもある。

誰もがと書きながら、一点だけ違っているのは、多くの人たちは選んだ方の人生を補強する事実をたくさん手に入れたところ

で、こんな追憶作業に入るだろうということだ。

どこで間違ったのか分からないのに、間違っていた事実だけが実感されてしまうのは辛いだろう。「なぜ、こんな事になってしまったのか…」。もう戻れないとわかってしまったから、「戻りたい…」と思ったのかもしれない。しかし、同窓会で懐かしい過去の感傷に浸るためには、確保できていなければならないものがあまりにも大きいことに気づいていなかった。

キャンディ

私は子どもの頃からペパーミント・キャンディが好きではない。缶入りの「さくま式ドロップス」の中に、必ず少数だが入っていた真っ白な薄荷は、私にはトランプのジョーカーのように感じられた。いつまでも残ってしまうそれは、最後に缶の中でカラカラ音をたてる。ペパーミント・キャンディは私にとって音とセットされた記憶だ。

ではこの男のように、私の人生にとって重要な分岐点にあった物とはいったいなんだろう？ 私だけではない。あなたの人生にとって、もしその時、手を伸ばしていたら別の人生だったかもしれないペパーミント・キャンディーは何ですか？

